

宮 城 県 の 経 済 動 向
平成 2 2 年 第 2 四 半 期
(4 月 ~ 6 月 期)

本県の経済概況

平成 22 年第 2 四半期(4 月～6 月期)の宮城県経済の動向をみると、生産は、持ち直しの動きがみられる。住宅投資は、引き続き低調に推移しているが、一部に下げ止まりの動きがみられる。公共投資は、減少となった。個人消費は、一部に政策効果がみられるが、弱い状態が続いている。雇用は、厳しい状況が続いているが、やや改善に向けた動きがうかがわれる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は依然厳しい状況にあるものの、生産を中心に持ち直しの動きがみられる。

〔前期(平成 22 年 1～3 月期)の概況〕

生産は、持ち直しの動きがみられる。住宅投資は、全体として低調である。公共投資は、減少となった。個人消費は、一部に政策効果がみられるが、弱い状態が続いている。雇用は、厳しい状況が続いているが、やや改善に向けた動きがうかがわれる。企業倒産は、件数、負債総額ともに増加となった。このように、生産を中心に持ち直しの動きがみられるものの、景気は依然として厳しい状況が続いている。

生 産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 2 期連続の上昇となった。前期比は、5 期連続の上昇となった。

大口電力使用量は、前年同期比が 3 期連続の増加となった。前期比は 2 期ぶりに増加となった。

住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 2 期連続の増加、貸家は 14 期連続の減少、分譲住宅は 2 期連続の増加となった。

全体では 12 期ぶりに増加となった。

公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同期比は、県は 4 期連続の減少、国は 2 期連続の減少、市町村は 6 期ぶりに減少となった。

全体では 2 期連続の減少となった。

大型小売店

大型小売店販売額(百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同期比が 43 期連続の減少となった。衣料品は 18 期連続の減少、飲食料品は 6 期連続の減少となった。

自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 4 期連続の増加となった。車種別の前年同期比は、普通車は 4 期連続の増加、小型車は 3 期連続の増加、軽自動車は 2 期連続の増加となった。

物 価

仙台市消費者物価指数(平成 17 年 = 100)は、総合指数は、前年同期比が 6 期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が 6 期連続の低下となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、9 期連続の低下となった。

雇 用

有効求人倍率(原指数)は、前年同期差が 11 期ぶりに上昇となった。新規求人倍率(原指数)は、前年同期差が 2 期連続の上昇となった。

実質賃金指数(製造業・30 人)は、前年同期比が 2 期連続の上昇となった。

企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が 3 期ぶりに減少となった。負債総額は前年同期比が 2 期ぶりに減少となった。

主な指標の動き

1 生産

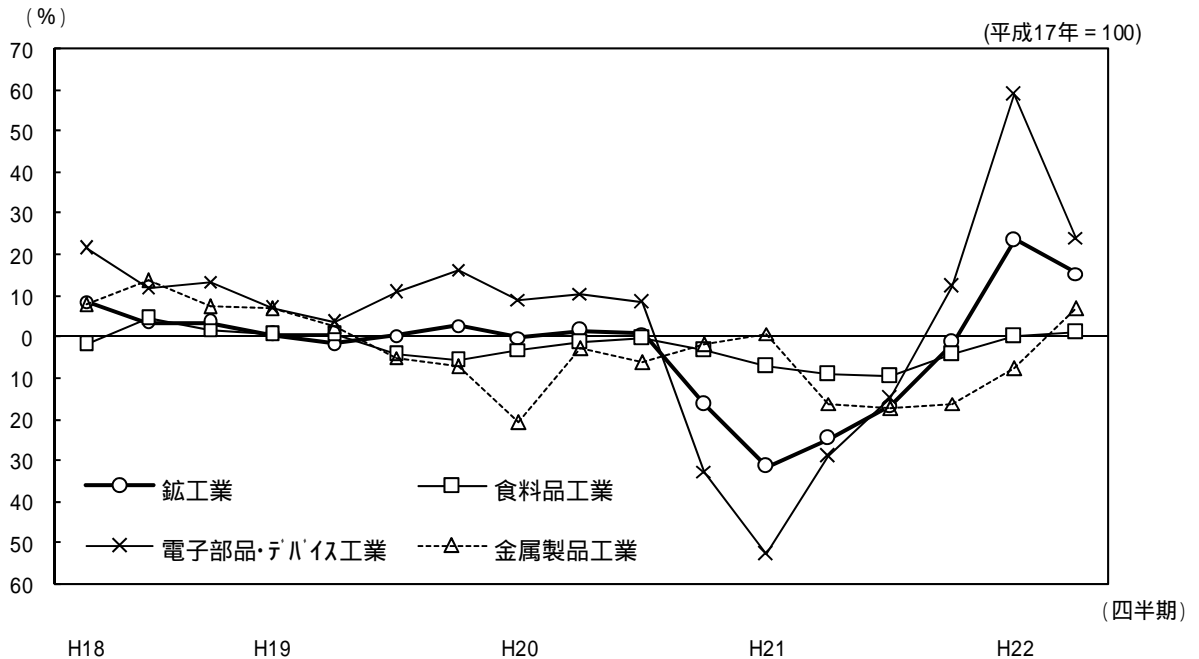
(1) 鉱工業生産指数

平成 22 年第 2 四半期 (4 月～6 月期) の鉱工業生産指数 (季節調整済) は 93.0 (平成 17 年 = 100) で、前年同期比 (原指数での比較) が 15.3% の上昇となり、2 期連続の上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が 24.0% の上昇となり、3 期連続の上昇となった。食料品工業は前年同期比が 1.0% の上昇となり、12 期ぶりに上昇となった。金属製品工業は前年同期比が 6.8% の上昇となり、5 期ぶりに上昇となった。一般機械工業は前年同期比が 28.0% の上昇となり、2 期連続の上昇となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が 10.1% の上昇となり、3 期連続の上昇となった。

前期比では 1.4% の上昇となり、5 期連続の上昇となった。

四半期別鉱工業生産指数前年同期比の推移



(資料:宮城県統計課)

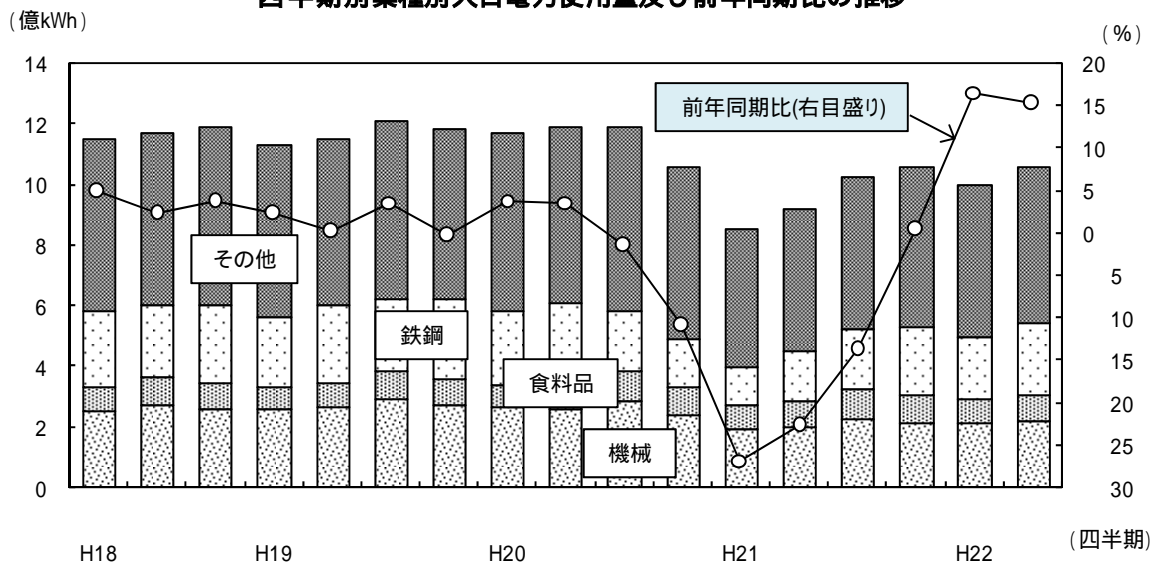
(2) 大口電力使用量

平成22年第2四半期(4月～6月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は10億6,029万KWhで、前年同期比が15.1%の増加となり、3期連続の増加となった。

主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が0.4%の増加となり、平成16年第3四半期以降、24期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が7.9%の増加となり、2期連続の増加となった。鉄鋼分野は前年同期比が47.1%の増加となり、3期連続の増加となった。

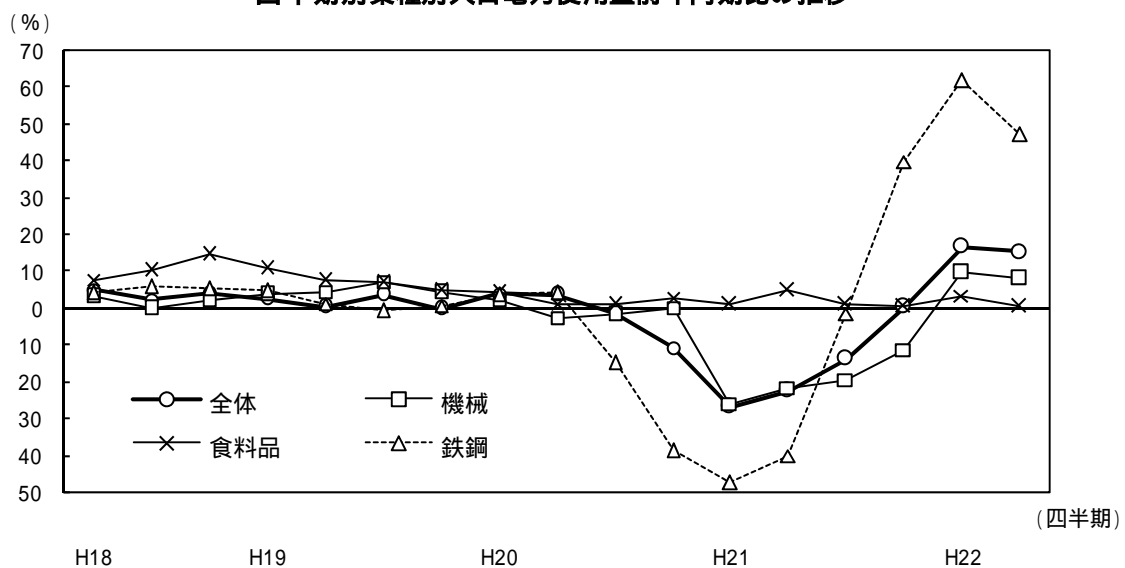
前期比では6.2%の増加となり、2期ぶりに増加となった。

四半期別業種別大口電力使用量及び前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)

四半期別業種別大口電力使用量前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店)

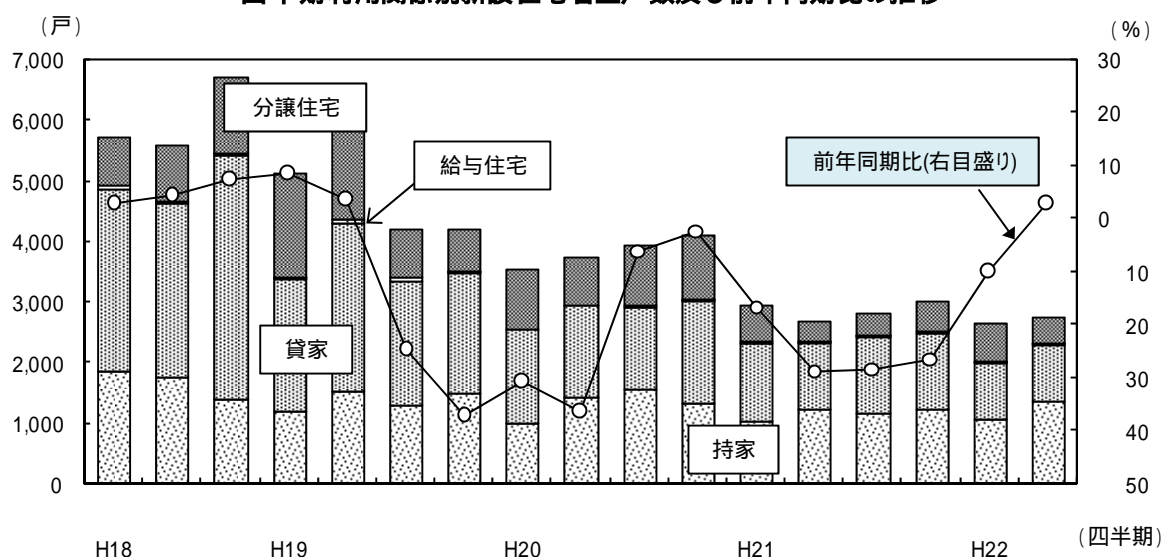
2 建設投資

(1) 新設住宅着工戸数

平成22年第2四半期(4月～6月期)の新設住宅着工戸数は2,747戸で、前年同期比が2.6%の増加となり、12期ぶりに増加となった。

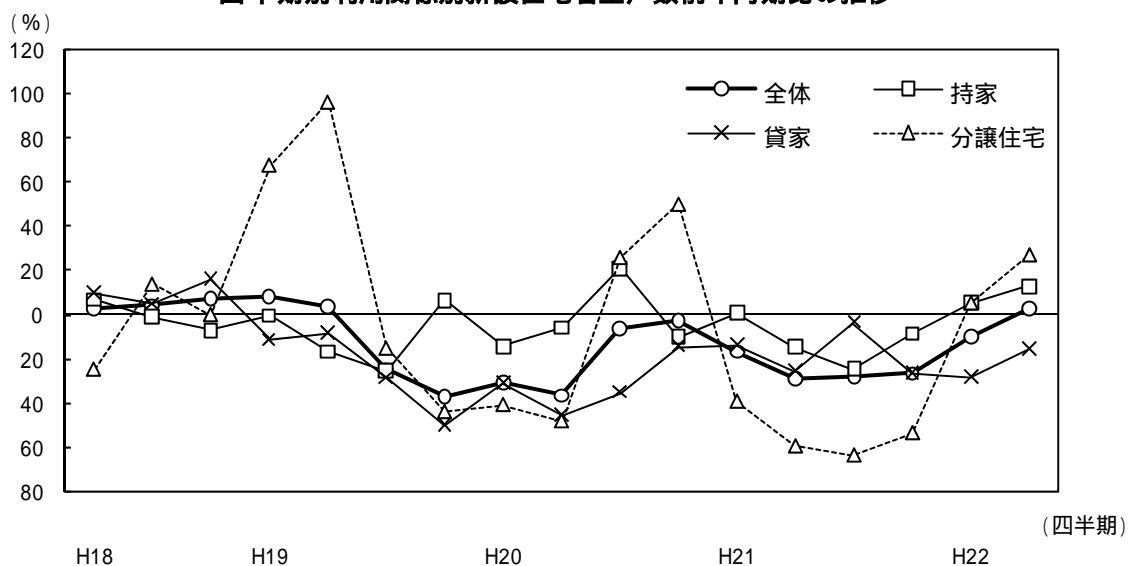
利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が12.7%の増加となり、2期連続の増加となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が15.9%の減少となり、14期連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が26.9%の増加となり、2期連続の増加となった。

四半期利用関係別新設住宅着工戸数及び前年同期比の推移



(資料:国土交通省)

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数前年同期比の推移

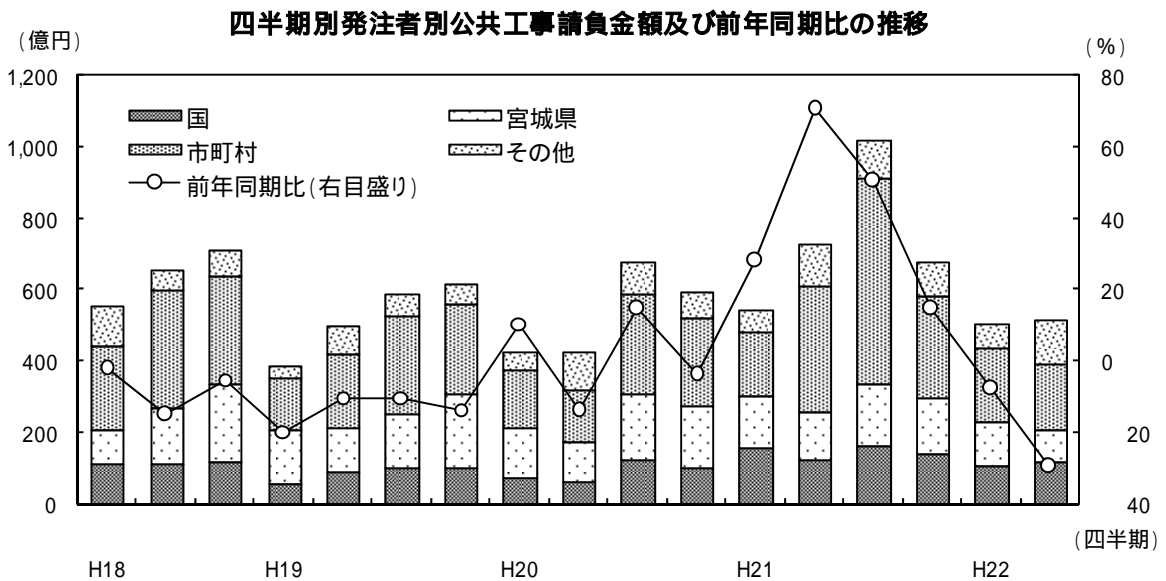


(資料:国土交通省)

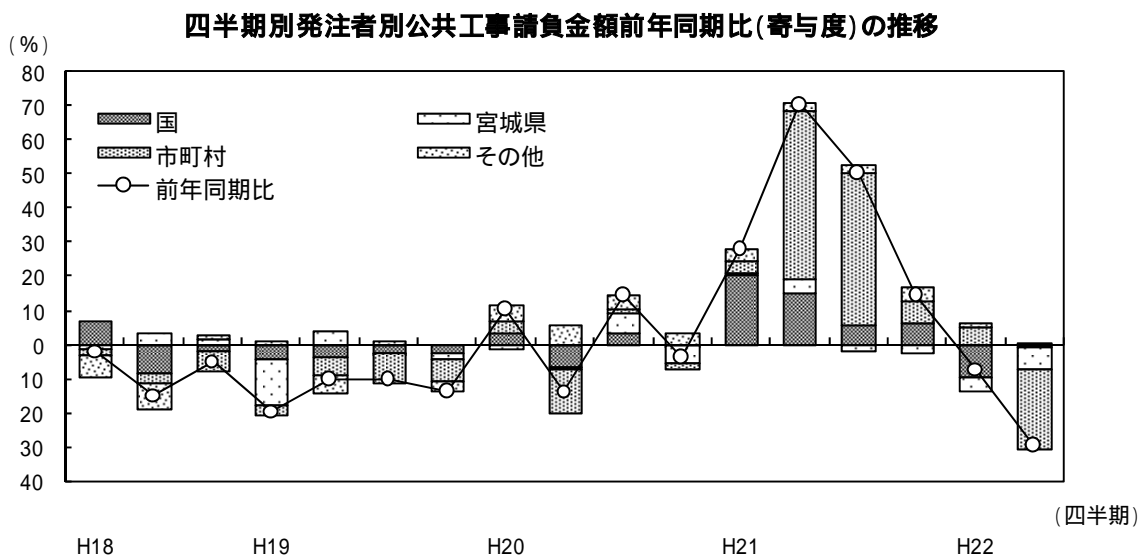
(2) 公共工事請負金額

平成22年第2四半期(4月～6月期)の公共工事請負金額は514億5,900万円で、前年同期比が29.7%の減少となり、2期連続の減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が3.2%の減少となり、2期連続の減少となった。宮城県は前年同期比が34.4%の減少となり、4期連続の減少となった。市町村は前年同期比が48.6%の減少となり、6期ぶりに減少となった。



(資料: 東日本建設業保証(株))



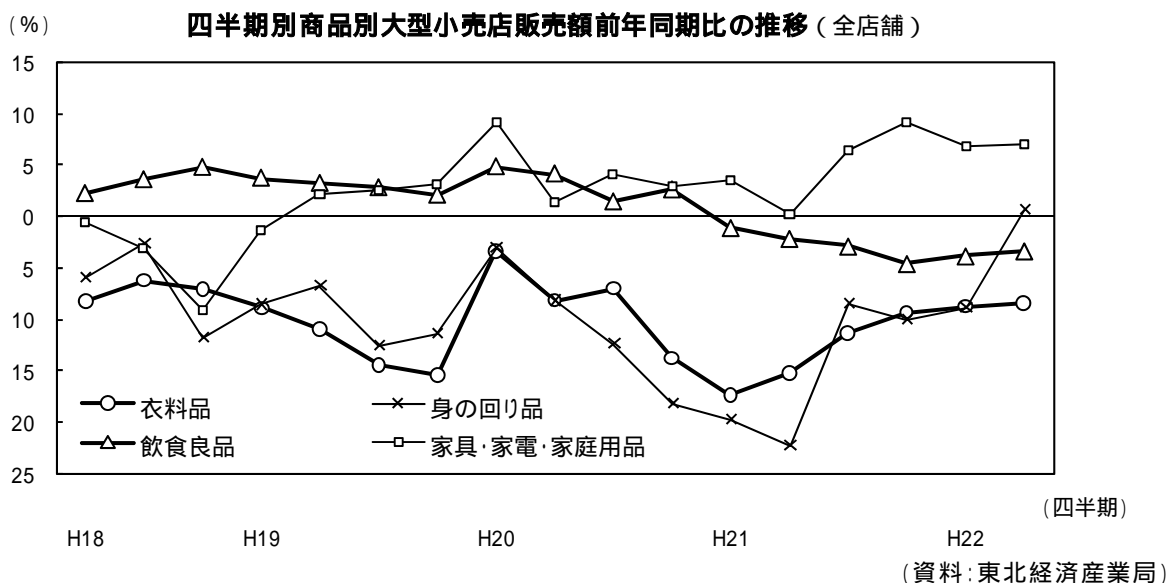
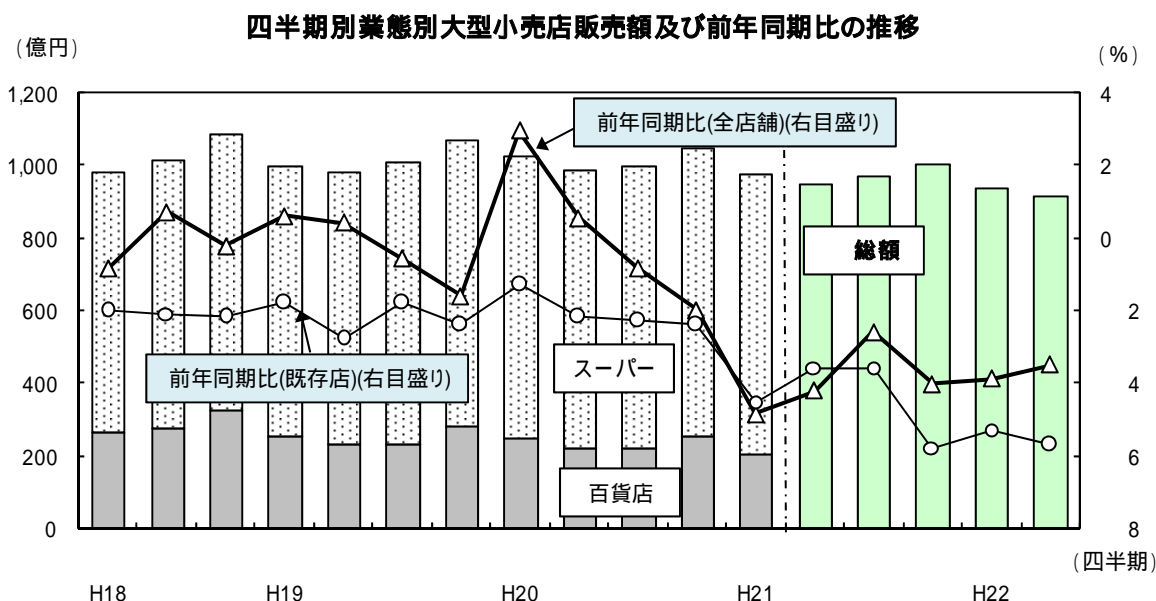
(資料: 東日本建設業保証(株))

3 個人消費

(1) 大型小売店販売額

平成22年第2四半期(4月～6月期)の大型小売店販売額は915億4,200万円で、前年同期比(既存店比較)が5.7%の減少となり、平成11年第4四半期以降、43期連続の減少となった。また、全店舗比較の前年同期比は3.5%の減少となった。

商品別にみると、衣料品は前年同期比が8.5%の減少となり、平成18年第1四半期以降、18期連続の減少となった。飲食料品は前年同期比が3.4%の減少となり、6期連続の減少となった。一方、家具・家電・家庭用品は前年同期比が7.0%の増加となり、13期連続の増加となった。

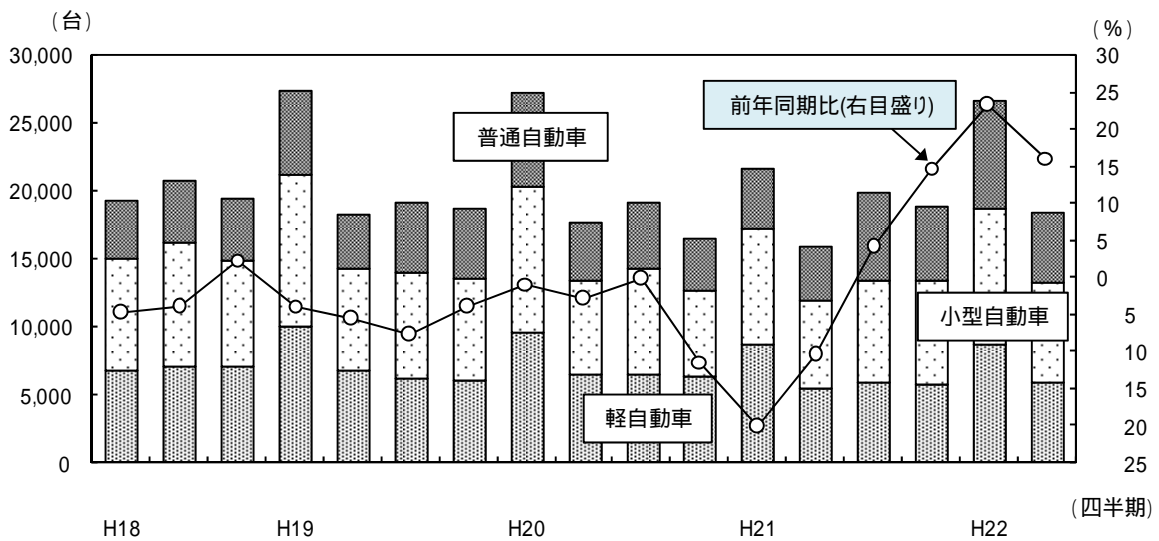


(2) 乗用車新車登録台数

平成22年第2四半期(4月～6月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万8,421台で、前年同期比が16.0%の増加となり、4期連続の増加となった。

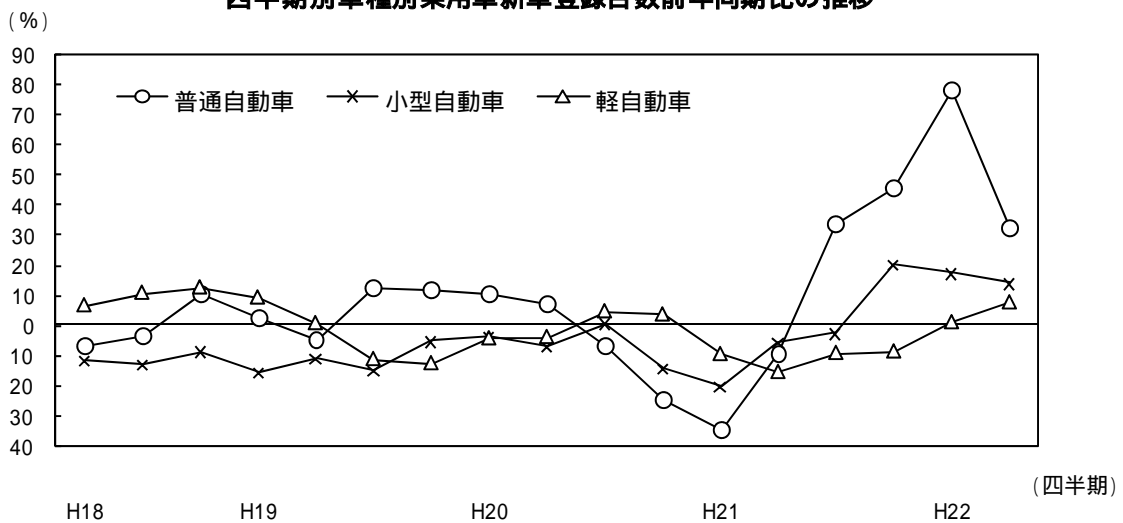
車種別にみると、普通車は前年同期比が31.9%の増加となり、4期連続の増加となった。小型車は前年同期比が13.8%の増加となり、3期連続の増加となった。軽自動車は前年同期比が7.4%の増加となり、2期連続の増加となった。

四半期別車種別乗用車新車登録台数及び前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

四半期別車種別乗用車新車登録台数前年同期比の推移

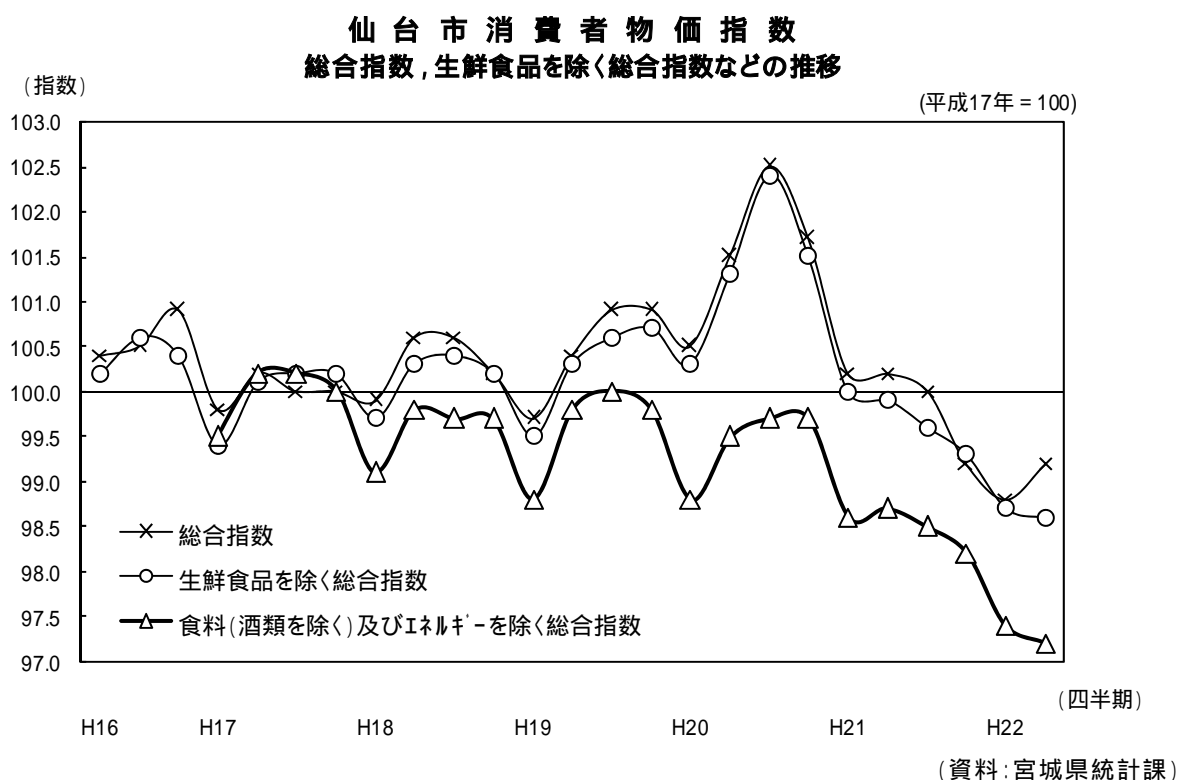


(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

4 物 価

消費者物価指数

平成 22 年第 2 四半期(4 月～6 月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 17 年 = 100)は、総合指数は 99.2 で、前年同期比が 1.0%の低下となり、6 期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は 98.6 で、前年同期比が 1.3%の低下となり、6 期連続の低下となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 97.2 で、前年同期比が 1.5%の低下となり、9 期連続の低下となった。

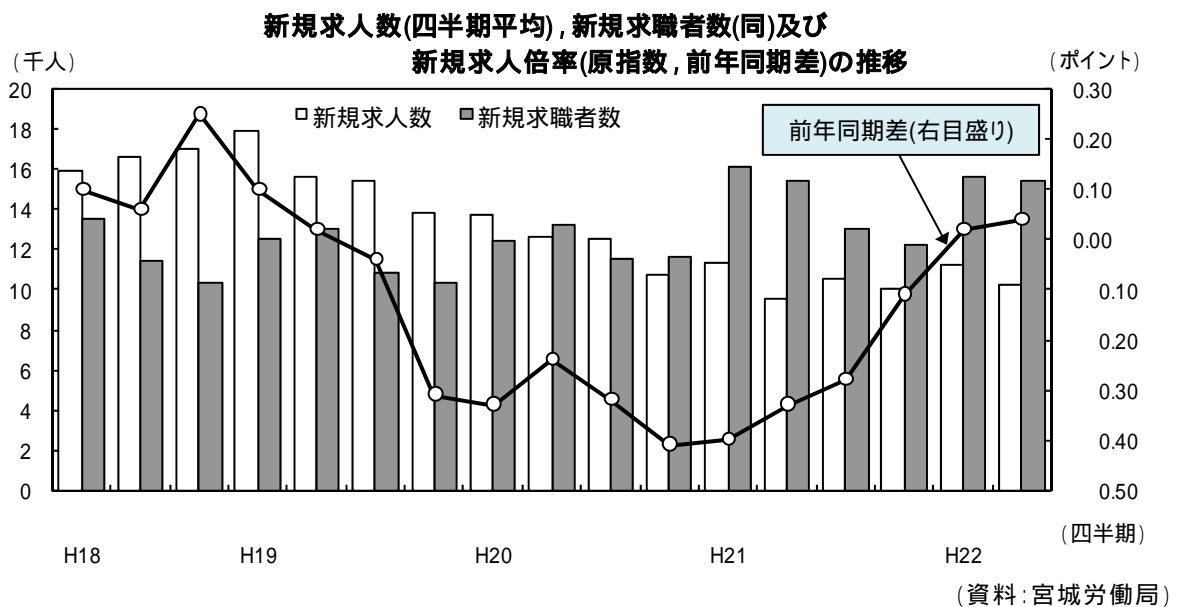
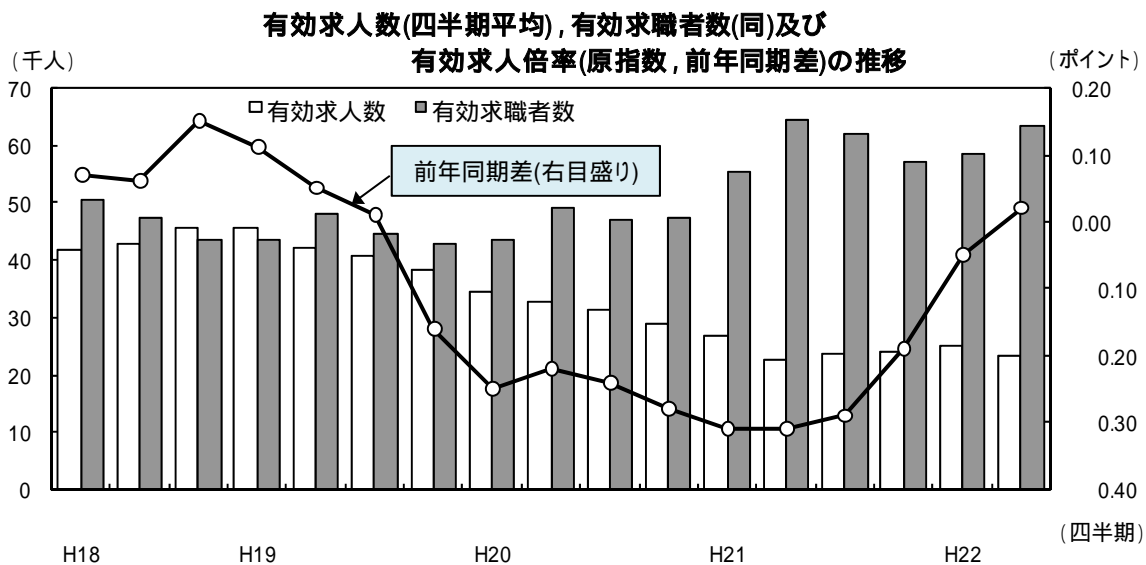


5 雇 用

(1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 22 年第 2 四半期(4 月～6 月期)の有効求人人数(月平均値)は 2 万 3,253 人で、前年同期比が 3.3%の増加となった。有効求職者数(同)は 6 万 3,372 人で、前年同期比が 1.4%の減少となった。有効求人倍率(原指数)は 0.37 倍で前年同期差は、0.02 ポイント上昇し、11 期ぶりに上昇となった。

新規求人人数(月平均値)は 1 万 213 人で、前年同期比が 7.2%の増加となった。新規求職者数(同)は 1 万 5,462 人で、前年同期比が 0.0%となった。新規求人倍率(原指数)は 0.66 倍で前年同期差は、0.04 ポイント上昇し、2 期連続の上昇となった。

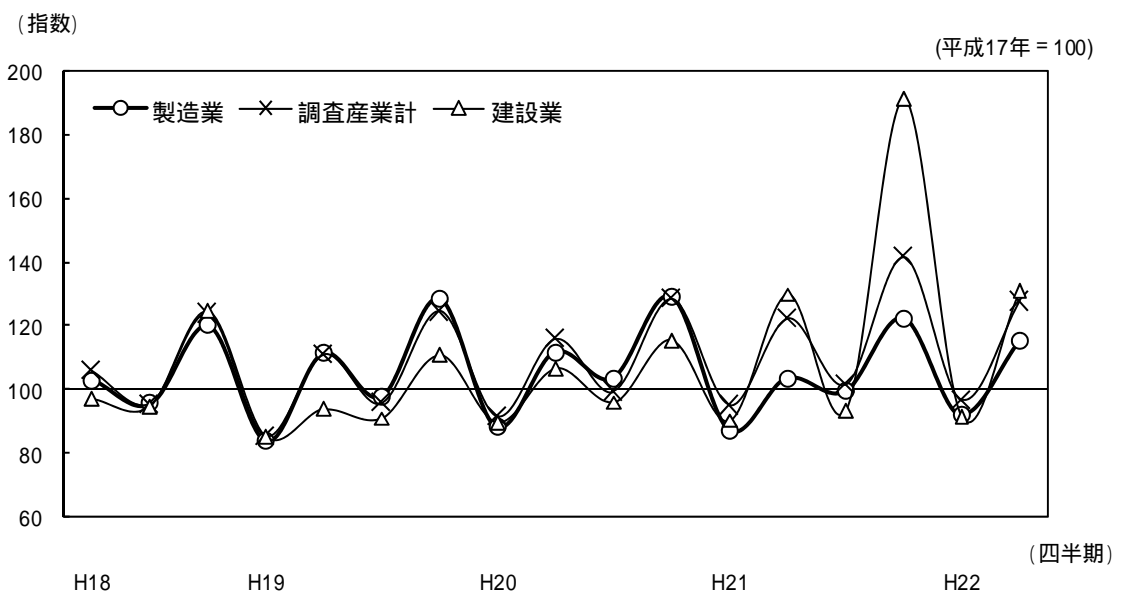


(2) 実質賃金指数

平成 22 年第 2 四半期(4 月～6 月期)の実質賃金指数(平成 17 年 = 100)の調査産業計(事業所規模 30 人以上)は 127.7 で前年同期比が 4.6%の上昇となり、13 期連続の上昇となった。

主要業種別にみると、製造業(事業所規模 30 人以上)は 115.1 で前年同期比が 11.3%の上昇となり、2 期連続の上昇となった。建設業(事業所規模 30 人以上)は 131.0 で前年同期比が 0.8%の上昇となり、3 期連続の上昇となった。

四半期別主要業種別実質賃金指数の推移(事業所規模30人以上)



(資料:宮城県統計課)

6 倒産

企業倒産

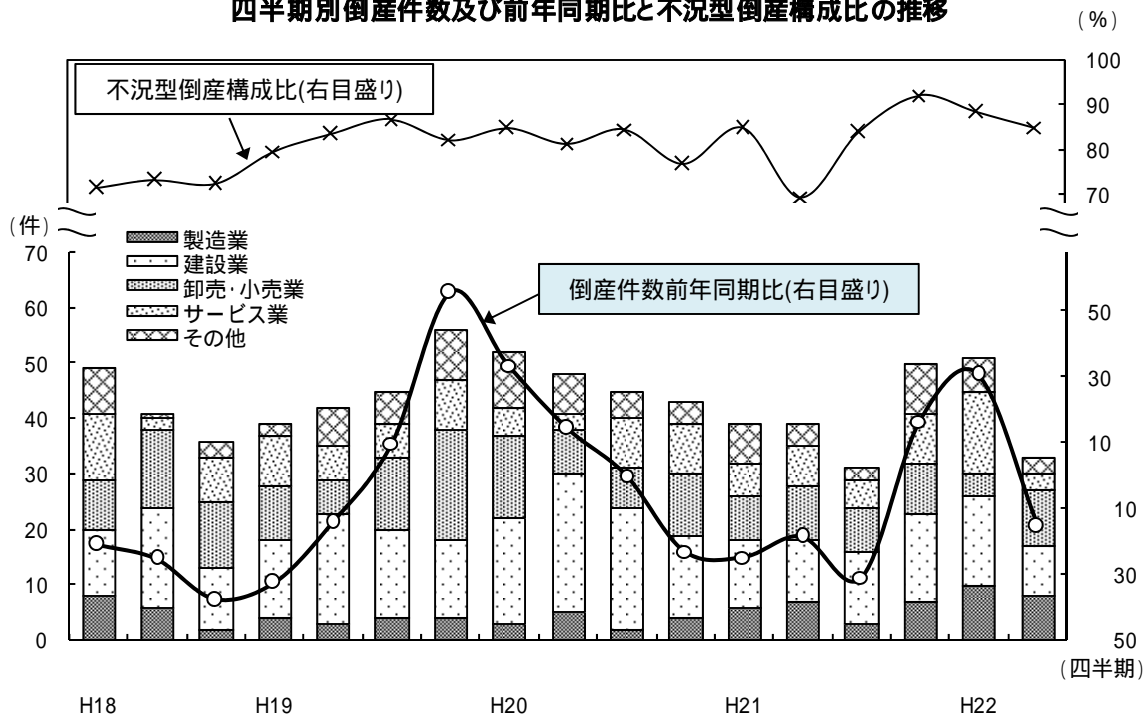
平成22年第2四半期(4月～6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は33件で、前年同期比が15.4%の減少となり、3期ぶりに減少となった。

負債総額は61億2,400万円で、前年同期比が57.7%の減少となり、2期ぶりに減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は28件で、3期連続の増加となった。件数の構成比は84.8%で、前年同期より15.6ポイント上昇となった。

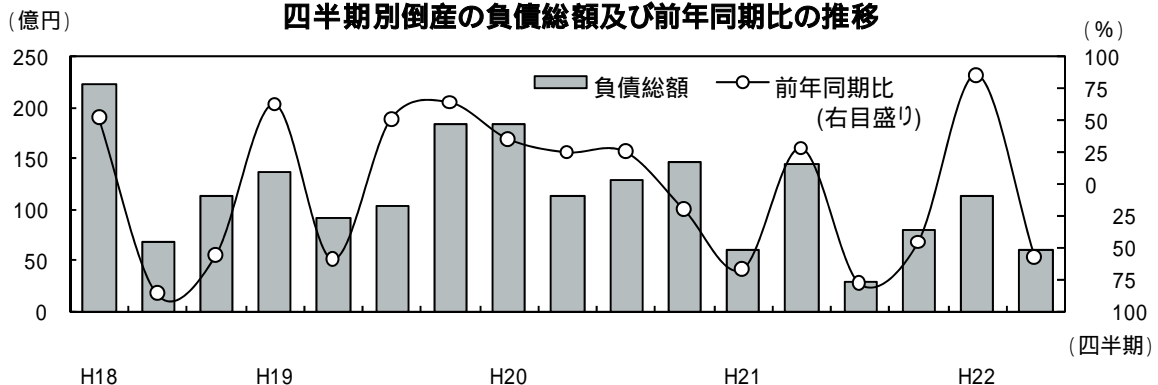
大型倒産(負債総額10億円以上)は2件発生し、前年同期より1件減少した。負債総額は27億円であった。

四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)

四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)